

全国学力状況調査の結果報告について

4月に実施されました全国学力・学習状況調査の結果の考察がまとまりましたのでご報告いたします。

<国語>

	本校平均（正答率％）	全国平均（正答率％）
国語A（主として知識）	69.6	75.6
国語B（主として活用）	56.4	66.5

●全国平均と比較すると、A問題が7.0%、B問題が10.1%、正答率が下回った。

1) A問題（主として知識）

- ・文脈に即して漢字を記述する問題において、正答率が全国平均に比べ10%以下となっている。
- ・語句の意味を理解し、文脈の中で適切に使う問題においては、正答率が全国平均に比べ高い。
- ・歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直して読む問題においては、正答率が全国平均と比べ28%以下となっている。

2) B問題（主として活用）

- ・文章の構成や表現の仕方について、根拠を明確にして自分の考えを具体的に書く問題においては全国平均と比べ17%以下となっている。
- ◆全般的に、「活用」する段階にまで「知識」の定着がなされていない。日常の文章を書く場面においても、誤字・脱字、あるいは不適切な言葉遣いや表現になりがちな生徒も多い。
- ◆基礎基本を大切にし、知識をしっかり身に着ける（定着させる）ことが重要である。
- ◆短答式あるいは記述式の問題において正答率がかなり低くなっている。知識を活用する場面を想定した学習をより多く取り入れる必要がある。

<数学>

	本校平均（正答率％）	全国平均（正答率％）
数学A（主として知識）	53.2	62.2
数学B（主として活用）	33.7	44.1

●全国平均と比較すると、A問題が9.0%、B問題が10.4%、正答率が下回った。

1) A問題（主として知識）

- ・数量の関係を文字式に表す問題において、全国的にも正答率は低いが、さらに下回っている。
- ・具体的な場面における数量の関係を捉え、比例式を作る問題において、正答率が25%となっており、全国平均の半分ほどの正答率にとどまっている。
- ・円錐の体積を求める問題において、その求め方が身につけているのは本校では20%程度の人数である。

2) B問題（主として活用）

- ・場面を想定した問題に対して、本校の解答状況においては、その数量の関係がどのように成り立っているかの理解に及んでいない状況であり、正答まで結びついていない生徒の割合が60%を超えている。
- ◆全般的に、「知識」の定着がなされていない状況にあり、場面に応じて数字や文字を使う「活用」についてはその正答率は低くなっている。
- ◆基礎・基本を大切にし、日常における数学の活用場面の設定機会を多く設けた上で、知識の底上げができるよう指導する必要がある。授業への取り組み姿勢は非常によい状況なので活用問題（特に文章題）にも取り組めるよう、思考力を養いたい。

<生活・学習意識調査>

1. 学習面について

- 余暇の過ごし方について、全国平均と比べるとその時間が長い。その中身としてはテレビを見る時間やネットを利用した時間が多い。
- 家庭学習の時間については、全国平均を上回るほどの時間を確保している生徒がいる一方で、明らかにその時間を確保できていない生徒がいる。学習時間の確保の仕方としては大きく二極化している。日頃の学習状況が数値として明らかになったといえる。
- 学校の授業の予習を行っている割合は、全国平均を上回るが、復習をしている生徒の割合は下回る。
- 自分の考えを口頭で述べたり、文章表記することを苦手を感じている生徒も割合としては数が多い。

2. 生活面について

- 家庭の手伝いについては、全校平均を上回っており、生徒が各家庭において役割を持ち生活をしている様子がわかった。
- 学校での様子を家庭で（保護者と）話題にしていると回答している生徒が約 65%程度であったが、全国平均は 75%となっている。

3. 自己肯定感・友人関係について

- 「友達との約束は守っているか」という設問に対しては、ほぼ全国平均と変わらず 90%を超える生徒が「守っている」と回答している。
- 「困っている人がいるときに進んで助けられるか」という設問に対しては、約 25%の生徒が否定的な回答をしている。同時に「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」という設問に対して、約 15%の生徒がそう思わないと回答している。全国的には否定的な回答をしているのは後者の設問については、約 5%にとどまっている。

<学校としての今後の取組について>

◆学習面・生活面について

学習面において、日常の授業への取り組みについてはとても前向きであることが、学校内で行うアンケートで結果が出ている。しかし、前向きに取り組んだ授業の内容について、知識や考え方を身に着けるための復習の時間を家庭で確保できている生徒と、そうではない生徒がいる。学習面から自己肯定感を育むためにも、家庭で学習内容の復習ができるような手立てを構築したい。

同時に、家庭での学習状況の確認も含めて、学校での様子を生徒と保護者間で十分に対話や会話ができる環境づくりに協力をお願いしたい。

自己表現をスムーズにするために、まず生徒の思いに耳を傾ける姿勢を大切に、その上で様々な考え方があることを伝えていけるとよい。

◆自己肯定感・友人関係について

自分の考えを伝えることに苦手意識を持っている生徒に向けて、授業や学級での活動の時間を活用し、自分の意思を他者に伝える場面を多く設定したい。同様に、様々な考え方に対して寛容でいられる気持ちを育みたい。

